

「豆で町おこし」山形県川西町の探訪記

(公財) 日本豆類協会

はじめに

山形県川西町は、豆を活用した地域振興として「豆のあるまち かわにし」プロジェクトを実施中であり、地域の特産である紅大豆®を活用した町おこしに積極的に取り組んできている（紅大豆は山形県川西町の登録商標）。

町内で豆祭り等を実施するほか、平成27、28、29、30年には、関係者の連携・協力の下、上野桜木あたり（台東区上野桜木町）にて「山形かわにし豆の展示会」（川西町で生産された豆、豆製品等の展示・販売、豆料理の紹介、豆に関する情報の提供などを実施）を開催し、成果を上げている。

また、町内には直売所「かわにし森のマルシェ」があり、その中で「豆の特設コーナー」が設けられて地元の豆類のPR、販売に努めている。

このたび、川西町を訪問し、豆による地域おこしの取組みの現状を伺ったので、概要を紹介する。川西町の地域資源である豆類を活用して関係者の連携・協力により、地域振興が進展していることを実感できた。

やまがた里の暮らし大学校まめ学部

やまがた里の暮らし大学校まめ学部は、「やまがた里の暮らし推進機構」（平成22年に設置）活動の一部として平成26年に設置され、「まめ学部長」には、神戸国際大学経済学部の中村智彦教授（総務省 地域力創造アドバイザー、川西町総合アドバイザー）が担当している。推進機構のスタッフは3名で運営費については川西町が支出しているとのことである。

まめ学部の活動は、フェイスブックの運営、豆類振興のための女性ボランティアスタッフである「マメリエ」（現在の登録者数は12名）の事務局を務めるほか、毎年12月に開催する「豆の展示会」の実行部隊となっている。「豆の展示会」については、平成31年度の開催に向けて現在、新企画を検討中であるとのことであった。

川西町の直売所「かわにし森のマルシェ」

「かわにし森のマルシェ」は、施設建設は川西町が行い、運営は（株）森のマルシェが行っている。施設はレストランエリアと産直エリアに分かれている。年間の来場者は約16万人、売り上げは約9千万円。

産直エリアでは米沢牛の販売、川西町の農家の野菜などを展示、販売するだけでなく、豆の特設コーナーも設置されており、川西町の特産の紅大豆ほか多種類の乾燥豆及び豆の加工品が展示、販売されている。また、愛媛県今治市の「安部農園」と連携し、川西町では生産できないレモンや柑橘類の販売コーナーを設けて冬季間、好評を得ている。



「かわにし森のマルシェ」の外観



豆の特設コーナー



地元産の乾燥豆の販売状況



地元産豆の加工品の販売状況



愛媛県産の柑橘の販売